



水島コンビナートの夜景

瀬戸大橋



美観地区倉敷館

自然の恵みと ひとの豊かさ



倉敷市長

伊東 香織 氏
いとう かおり

総務省インターネット戦略企画室に着任した平成13年、私はIPV4からIPV6への移行に携わっていた。インテックの中尾哲雄会長に初めてお会いしたのは、この頃だった。その後、平成15年に総務省から岡山県倉敷市へ総務局長として赴任。江戸時代の街並みを残す白壁の美観地区や大原美術館のある歴史と文化のまちとして知られるが、鉄鋼、自動車、石油化学などの産業が集積する水島コンビナートを擁する、ものづくりのまちでもある。また、一方では、市街地を少しすすむと、ゆたかな田園と桃などの果樹栽培の丘陵風景や、瀬戸内海、一級河川高梁川など、自然の恵み豊かなまちでもある。瀬戸大橋や、最近では、国産ジーンズの聖地としても知られる。

平成20年に市長に就任したが、市の特色を一言で表すと何ですかと聞かれるといつも困る。私は、倉敷市が「いろいろな顔」を持っているところがとても好きであるし、皆さんに知ってもらいたいと思うからだ。人口50万人近くの都市で、このように都市部、

工業地帯だけでなく、農業、漁業、観光産業などが盛んなまちは、なかなかない。合併を繰り返してきた倉敷市の多様性から来るものだ。

とかく合併したまちでは、特色や、まちのイメージまでも一体化していく、という方向になりがちだが、私は、そうは思わない。各地区、そして、ひとりひとりの市民が自分たちの個性と魅力を伸ばし、力を発揮してくれることこそが、まち全体の発展に繋がっていくと信じている。きっと会社の発展も同じなのではないかと思う。

倉敷市は本年3月、新たな局面を迎えた。物流拠点・立地条件の優位性が認められ、航空機産業と立地協定を締結。また、国際バルク戦略港湾として水島港が国の選定を受けるなど更なる展望が開けている。そうした中、海では鯛やメバルが釣れ、田んぼではカエルが鳴き、人々が地域の祭りを大切に作る、そんな温かいつながりを持ったまちづくりをこれから繋いでいきたいと思います。